

前 奏 黙想	祈 禱
讃美歌 20 主をほめよ、わがこころ	讃美歌 120 いざうたえ友よ
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 ホセア書 11:1~4	黙 禱
マタイによる福音書 2:19~23	主の祈り 564
讃美歌 411 すべしらす神よ	頌 栄 539 あめつちこぞりて
説 教 『旅する三人、と共に旅をする』	祝 禱 後 奏

「ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、言った。〔起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった〕(マタイ2:19~20)」。ここは父ヨセフが前面にいて、救い主イエス(1:21)は名も無き「子供」、マリアもただの「母親」に過ぎない。誰も気にとめない片隅での、ヨセフの決断に世界の命運がかかっている。

「まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした(ホセア11:1)。しかしイスラエルの民は功利的な偶像に傾き、主なる神に背いた(11:2)。「わたしが彼らをいやしたことを、彼らは知らなかった(11:3)」からだ。モーセに率いられた遠い日の「出エジプト」の出来事は、預言者ホセアを通して(11:1)、マタイ福音書に受け継がれている(マタイ2:19~20)。神の約束とその御手は時代を超越し、現代でも脈々と続いていて、私たちは決して忘れ去られることはない。ヨセフとマリアとイエス、三人のイスラエルへの帰郷には、歴史を貫く神の救いの計画がぎゅっと凝縮している。

ヨセフら三人はイスラエルの地に帰って来た(2:21)。だがエルサレム周辺のユダ地方は、ヘロデの長男、残忍なアルケラオの統治下にあると知り、ベツレヘム行きを躊躇した(2:22)。そんな折「夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行って住んだ(2:22~23)」。

ヨセフの生業は大工・石工職人だから、農民や漁民のように土地に縛られることはない。とはいえ、夢でお告げがあるたびに妻と幼子を連れ、急な出立で見知らぬ地に移り住むことは楽ではあるまい。一度目はエジプトへの逃亡(2:13)、二度目はイスラエルへの帰郷(2:20)、三度目は文化の違うガリラヤへの移住(2:22)。読み落としてしまいがちだが、このヨセフの「素朴さの力」は驚くべきもの。ただ夢での神からの「お告げ」に忠実に従い、コネもアテも頼れるものが何もない所へ旅立った三人。

そう考えてみると私たちは、新しいことをしようとする時に準備し過ぎではないか。いや、案外そうでもないか。皆さんもまた聖霊の風に吹かれ、見知らぬこの教会にやって来て、ここで「キリストの体」になっているのだから、人生においては同じようなものか。聖霊に吹かれる者には、コネもアテも綿密な計画も頼りになる人脈も、必要ではない。「風」が吹いているなら、もうそれで充分だ。

「〔彼はナザレの人と呼ばれる〕と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった(2:23)」。マタイ福音書は「預言者たちを通して」と記したが、これが旧約聖書のどこに対応しているかは不明。だが預言者の一人としてのホセアの言葉を聞いた(ホセア11:1~3)。まだ聞いていない大事な一節がある。「わたしは人間の綱、愛のきずなで彼らを導き、彼らの顎から轆を取り去り、身をかがめて食べさせた(11:4)」。家畜の口にはめられる「轆」。人間の轆とは何であろうか。私たち一人ひとりを拘束している轆は、神の愛によって取り去られ、何者、何事、自分の罪や死にさえも支配されない。

神が「身をかがめ」て僕となり、私を救うために「食べさせてくれる」。この姿は弟子たちの足を洗ったイエスを想起させる(ヨハネ13:4~5)。イエスはこの洗足を「キリストとの「きずな」のためだ(13:8)」と教えた。こうして「愛のきずな(ホセア11:4)」は実現する。神が僕のように膝をつき、私たちを自由に解き放ち、聖霊の風が吹き、集められてキリストの体となり、私たちはヨセフら三人の旅に加わる。

ヨセフとマリアと幼子イエス 三人の旅についていけるだろうか 突然に出立し 準備はできないから コネやアテ 計画や人脈に縛られることがない 旅をするには杖一本あれば充分 (マタイ6:8) あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。1/8(水)1:00~3:00 教会カフェ。1/11(土)1:30~3:00 聖研・祈祷会。牧師の動き:11/10(金)YMCA で聖書のおはなし。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。